

# CURES

## NEWSLETTER

地域経済  
ニュースレター

1989.4.15 No.11

### 巻頭言

## 情報化と社会

平館道子

日本はいま工業化社会から情報化社会へと移行しつつあり、しかも世界で先駆的な位置に立っている、ということがよく云われる。実際私たちが日々受け取る情報の量は、以前とは比較にならぬ程膨大なものになり、取捨選択と検討に追いまくられる状態である。情報の処理と伝達の技術の発達のおかげで、生活上、あるいは職業上必要な情報を手軽にかつ速やかに入手でき、また家事作業や事務的な作業を軽減することが可能になって来た。産業における高度の情報技術の駆使と共に、これらのことは私たちの私的な、あるいは職業上の生活に大きな影響を与え始めている。人工知能や各種のエキスパートシステム等と

いったハード、ソフト両面にわたる高度な情報処理技術の発達と伝達ネットワークシステムの拡大、およびそれに伴う情報の社会的流通の増大が、社会経済にどのような影響を与え、私たちの社会がどのような方向に進むのかは、切実な関心事であり、現実の分析を通じてその変化を追究し、発生する矛盾や問題点を明らかにして行くことは社会科学の主要な課題の一つであると思う。

情報技術は情報の収集、処理、伝達、利用に関するものがあるが、処理と伝達の段階における技術が飛躍的に発達しつつあるのが現在の特徴であろう。これは情報の処理という頭脳労働から人間が解放されることを意味し

- 巻頭言 .....平館道子
- CURES Report  
「中国の経済改革の現状と問題点」 .....内山雅生
- CURES Salon  
「『現代資本主義と不安定就業問題』を刊行して」 .....伍賀一道
- Topic  
「石川県公文書館の建設を切望して」 .....蔵国晴
- Information Processing  
「線形計画法をめぐる最近の動向」 .....前田隆
- 地域経済文献情報

ているが、長い間情報処理は人間によって行われて来たから、このことの社会、文化に与える影響は極めて大きい。分野によっては意思決定までもプログラム化され自動的に行われるようになって来ている。1 昨年秋のドル暴落の一因が自動的なシステムによる取引であると説明されたことは記憶に新しい。したがって情報化は人間の知的な活動を減退させる方向に作用する可能性も持っているのであるが、望ましい方向は勿論、知的活力、思考能力を旺盛に、かつ深化させ、知的な活動を助けるものでなければならない筈である。こういった観点から考えると、単なる情報とは区別される知識とは何であるか、知的活動に貢献する情報の利用の仕方はどのようなものであるかが深刻に問われなければならないと思う。

また社会的には、官僚機構をはじめとするさまざまな社会組織体が人間による情報処理機能を果して来たことを考えれば、今後の情報化の展開によって機構や機能の変化を余儀なくされるであろう。これまで偏在していた情報が利用可能になって構造的な変化がおこる分野もあるであろう。こういったことを予測することは私にはとても出来ないが、いずれにしても情報化の展開と滲透が社会的な変革を惹き起すことは予想できるであろう。問題はそれがどのような方向に向かうかという点である。

革新的な技術が社会に与えるインパクトは決して一様ではないことを歴史が示している。同じ技術が或る社会では発展の契機となったのに対し、他の社会では利用されなかったり、逆に衰退に導いたりしたという事実を考えなければならない。技術というものは、少なくとも現代においては、人々の物質的および精神的

な生活の一層の充実と、社会をとりまく諸環境の保全と改善に役立つべきものだと、私は考えている。しかし、技術の与えるインパクトが実際にどのような方向に向かうか、新しい技術を吸収して望ましい方向に展望をきり拓くことができるかどうかは、その社会が技術に対する需要を潜在的に持つに致っているかどうか、ということと共に、社会の基本的原理や枠組、諸階層諸勢力の力関係、文化的活力に大きく依存するであろう。人権という概念が確立していない社会や批判勢力の存在しない社会での技術の発達がいかに人々の生活を損うかは、既に経験済みである。情報化という技術革新が大量の情報の流通とその効率的な利用だけをもたらすとすれば、きびしい管理社会への危険性をはらむことになる。

大量の情報の流通と云ったが、情報は意味を持つものでなければならないから、意味を含めた量を測ることは非常に困難である。また情報の価値については、決定理論において統計標本の情報の価値に関して理論的展開がなされているものの、一般的な情報に関しては手つかずであると云えよう。社会科学の観点からどのように把え理論化するかは、今後の課題であろう。

私たちが直面している技術革新は、物財とはちがって、情報という、人間の内面的な活動に直接関連をもつにもかかわらず、理論的にも実際的にもその取扱いにあまり熟達していないものに関するものであり、しかも模範とすべきモデルも存在しない状態で模索しながら進まなければならないのであるから、守るべき社会の基本的な原理や概念を確認し、常にそこに立ち返って変革の方向を見定めることが特に重要だと思うのである。

(金沢大学経済学部教授)